

留 学 生 通 信

## 今を大切に

Seize the Day



兪 アラ  
Yoo Ahra

■2011年横浜国立大学工学部生産工学科卒業

■主として行っている研究

・バイオエンジニアリング

■所属学会および主な活動

・日本機械学会, メカライフ学生委員

■通学先

学生員, 横浜国立大学大学院環境情報学  
府環境システム学専攻システムデザイン  
コース

(〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台  
79-7)

E-mail: ahra@neuman.jks.ynu.ac.jp)

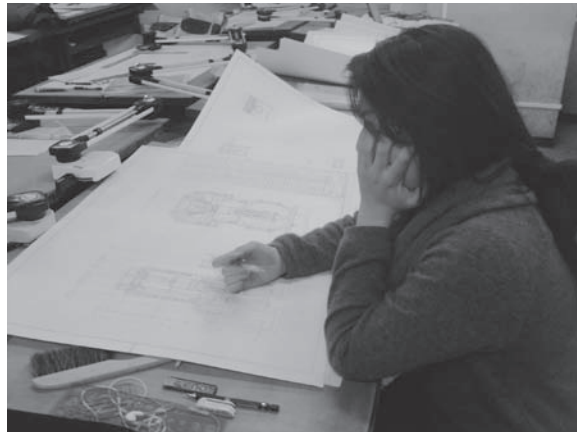


図1 知識の理解に役立った手書きの製図

## 1 はじめに

私は今日本に戻る飛行機を待ちながらこの文章を書く。もう6回目の新年を日本で迎えて、毎年10月に来日する韓国人の後輩たちも5年間出迎えた。韓国の友達には大学を卒業したら帰ってくるだろうと言われていた。自分でもそうなるだろうと思っていたかも知れないが、気づいたら大学院生になっていた。冗談に聞こえるとは思いますが自分には本当にそんな気がする。留学生にも時間は弓を離れた矢のように一瞬で過ぎていくものなのである。

## 2 次々と開かれる扉

この6年間私にとって日本はどんなところだったのだろうか。高校を卒業してすぐ日本に来たので韓国の大学との比較はできないし、今となってはこの生活が当たり前になってしまったが、ひとつ確かなものがある。それは、与えられたことをひとつずつクリアすると、いつの間にか新しい扉が開かれることである。

何から書けばいいのかわからないほ

ど多くの経験をした。そのなかで、何よりも記憶に残るのは手書きの製図である(図1)。CADも少しは使うが基本的には手書きだった。日本の他大学や韓国の友達に聞くと、大体はCADを使うようで、手書きの製図はほとんどなかった。CADも手書きも結局は自分で計算し、設計するものであることに変わりはない。しかし、授業で習って知っているつもりである知識を理解して本当に自分のものにするには、少し苦労はするが手書きのほうが役に立った。基本的に忠実に、これが私が感じた日本の機械工学とものづくりについて受けた初めての印象である。

3年生の夏には製図の延長として電気自動車(EV)づくりに参加した(図2)。さほど立派なものができるわけではないが、設計をして、製作して、レースまですべてを体験できた。この授業だけではなく、大学には鳥人間や、フォーミュラカーづくりの部活もあることに驚いた。この国で受けた二つめの印象は、自分で作ってみること。

そして4年生から今までの2年間、バイオエンジニアリングの研究をしている(図3)。学校の工場ではEVを作っ

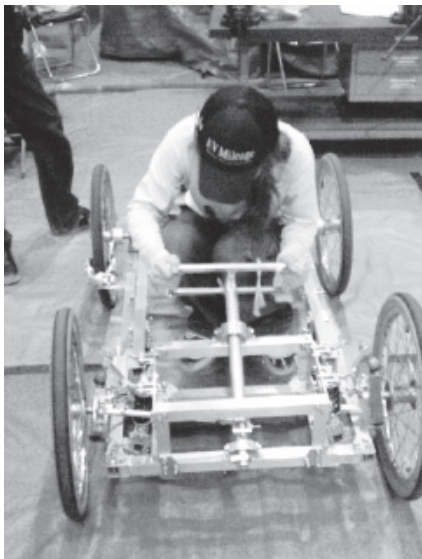


図2 EV製作に参加

ていた手で、今は細胞の培養を行っている。学部や研究室を変えたわけでもないのに、また新しい扉が開いた。新しい分野への応用。それが三つめの印象なのである。

### 3 そしてアメリカへ

そしてこの文章がメカライフに載る頃には私はアメリカにいると思う。バイオ研究、勉強のためにアメリカのクリーブランドクリニックの研究所に行く。これが最近開いた私の新しい扉である。私の最後の印象が、工学部の学生は外国への留学をあまり好まないことである。韓国では、大半の大学生が語学留学に行ってくるという事情を知ったら、びっくりするだろう。すでに日本に留学中の友達の中には、休みの間や休学をしてまでまた新しいところに行く人も少なくないのである。

新しい扉が開くのか、自分で開けていくのかはわからないが、その前に大前提がある。辛くとも楽しくとも毎日淡々と進むこと。日本に来て一番大変で帰国したいとまで思った2年生の冬、「ただ今日のことをがんばってやっていたら次の道は自然に私を導いてくれる」と父に言われてから「今日」という現在に集中して生きている。これが私の留学生活で得た一番の収穫であると思っている。

研究室に配属されてから一番頑張っていて楽しんでいてことはプレゼンテーションである。去年は学会発表の機会もあった(図4)。今、私の目標

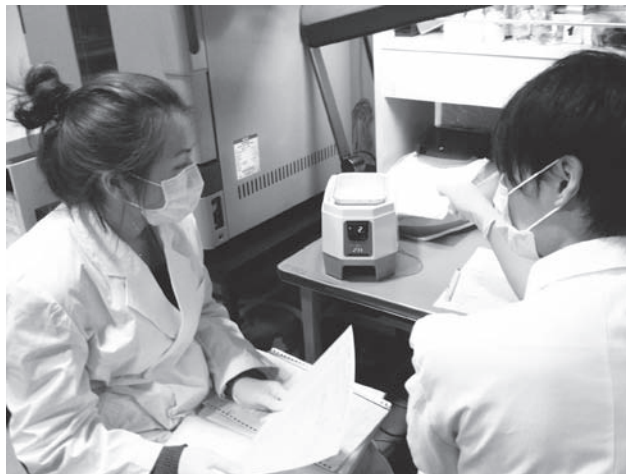


図3 バイオエンジニアリングの研究室で



図4 学会でのプレゼンテーション

はよい発表ができるようになることである。よい発表ができるためには伝える力と、何よりよい研究内容。中身を充実させてよい形で世に出せるようになることが研究を続けている間目指す自分のゴールである。この大きな目標に向かって、今できる小さな計画が、今までどおり、また新しい経験になり明日につながる道しるべになるだろう。

これからもずっとたくさんの経験をして、新しいことに挑戦していきたいと思う。私に頑張るチャンスを与えてくれる横浜国立大学に、日本に、感謝している。メカライフの学生委員になっているんな方と話ができて、いろんなところへの見学ができるようになったのも普段にはできない貴重な経験で自慢になる(図5)。2011年の大震災の後、友達や親戚から日本で留学生活をしていることに対する心配の声をよく聞くのも事実だが、私は今ここにいて本当によかったと思う。



図5 メカライフの学生委員としてJAXAを見学

### 4 おわりに

これからしばらくは新しいところで日本から来た韓国人留学生の生活を。また時間があっという間に過ぎてくれたら、いつもチャンスを与えてくれる場所である日本に戻り、研究を続けて卒業するだろう。その後のことはどうなるかまだわからないが、戻ってくるときまで皆様お元気で。これからもよろしくお祈りします、日本。